

# ほのぼの

第40号

平成27年

7月

発行

神戸市須磨区戒町1-2-3

TEL.078-732-5209

信行寺門信徒会



せわいなあ・(心配しなくてよい)

人間の本质は、いつの時代にあっても変わらないようです。親鸞聖人が生きておられた鎌倉時代の人びとも、今の私たちも同じものをかかえて生きています。

日常生活の面では、鎌倉時代の人よりも今の私たちがより快適で便利な生活をしているように思えます。科学技術の発達は、想像もつかないスピードで私たちの生活環境を作り変えていきます。しかし、科学技術がいくら進歩しても、それを運用するのは人間です。その人間の本质は少しも進歩しておらないということです。

私たちの欲望には限りはありません。いくらあっても満足できず、知らず知らずにエスカレートして、そのことごとつぶりつかり、慣れてしまふ。しかも、自分の欲望がかなうことを幸福と考え、欲望をさえぎるものが出てくると腹が立つ。怒りも、そねみ、ねたむ心も、私たちがこの世を去るまで止まりません。これが人間の現実生活です。

住職

私たち人間を自動車に喩えることが出来ると思  
います。自動車にはハンドルとブレーキ、アクセル  
が必ずついています。ハンドルは目指す方向に車を  
進める役をします。ブレーキとアクセルは、スピー  
ドを調整しながら車を目的地まで安全に運行して  
いく役目をしてくれます。これらがそれぞれの役目  
を充分に果たしてくれないと、安心して乗れる車と  
は言えません。

同じように、私たち人間の日常生活も「煩惱」と  
いうエンジンで動いていますから、ハンドルとブレ  
ーキ、アクセルの役をするものがなければ安全運転  
は不可能です。世間には、人生において安全運転す  
るために法律や道徳などがあります。しかし、これ  
は地域や時代によって変わるルールですし、「人が  
見ているか否か」で効力が変わってきます。「誰も  
見ていないからいいだろう」、「だれにも分らない  
からいいだろう」の思いは、起きやすいものです。  
ある人が書いていました。タクシーに乗っていた時  
のことだそうです。赤信号で信号待ちをしていた運  
転手さんが、「車はこない、人もこない、おまわり  
さんも見ていないけれど仏様だけは見ておられる」

と口ずさんで、青信号になるまで待つておられたそ  
うです。

これは法律や道徳律の及ばない世界です。「いつ  
でも見ているぞ、聞いているぞ。あなたの全てを知  
っているぞ、分かっているぞ」と、阿弥陀さまが私  
たちを引き受けてくださっている顕われです。煩惱  
の持つ恐ろしさ、虚しさを明らかにして、ハンドル、  
ブレーキ、アクセルの役目を引き受けておられるの  
が、阿弥陀さまです。お念仏の心です。

今年のNHKの大河ドラマは長州藩の青年の活  
躍を描いた「花燃ゆ」です。檀ふみさんの演じる母  
親がにこにこ笑いながら「せわーなあ」という場面  
がなん度もありました。「せわーなあ」は、「せわは  
ない・世話はいらぬい・心配しなくてよい・任せて  
おきなさい」という意味の方言です。

生涯、煩惱の生活から離れることのできない私た  
ちに「心配しなくてもよい、全て引き受けておるぞ」  
という阿弥陀さまの呼び声に聞こえます。この方言  
に、どんなことがあっても攝取不捨の光の中におさ  
めとってくださいるお念仏の心が感じられます。

## 信行寺 花まつりに参加して

いたやど保育園園長 橋本隆太

四月一日、いたやど保育園の入園式があり、新しい子ども達が元気いっぱい入園してきました。

四月三日、すぐ近くの信行寺さんから「花まつり」のご招待を受け、三歳児、四歳児、五歳児の子ども達と職員はドキドキ、わくわくしながら参加させていただきました。玄関を入ると今までに飲んだこともない少し甘いお茶「甘茶」を頂くと、子どもたちは不思議な味だなという顔をしていましたが、みんなすっかりと甘茶を飲んでいました。



その後お堂に入り、お寺の人から子ども達にも分かりやすくお釈迦様のお話を聞きました。「花まつり」とは「お釈迦様の誕生日を祝う日」だということ

とを知ることが出来ました。

少し緊張しながら子どもたちは、「ポンポンはるがきた」「ともだちできちゃった」の二曲を歌い、おじいちゃん、おばあちゃん達に聴いてもらいました。折り紙でかわいい動物やカブト、紙鉄砲などの作り方を教えてもらいながら地域の方々と触れ合うことが出来、子どもたちにとって本当に楽しい「花まつり」でした。また、来年も是非呼んでください。



## つながる

### 副住職

先日「五時間スマートフォンを断って自然の豊かな郊外をハイキングする」という内容のテレビ番組を見ました。

参加者の皆さんは、毎日携帯スマートフォンをかたときも離れた事がない人ばかりです。イベントの初めに係の人が参加者の携帯電話をすべて回収します。その後、山道を歩き田舎のお寺の境内などにたたずんで、思い思いの時を過ごすのですが、町の喧騒から離れた周りの静けさや自然の景色、鳥のさえずりなどに改めて驚き感動していました。

もし普段のように、携帯スマートフォンを持っていたらどうでしょうか？おそらく、周りの景色をカメラでとるか、メールやラインが来ているのに気づいて返信をするか、気になることを調べるか、等等、気を散らせて大切な「今、ここ」の瞬間を味わうことができないのではないのでしょうか。

そして大人同様、子どもたちの間でのコミュニケーションも私のころとはずいぶん変わりました。毎日学校で会うような友人ともLINEなどのツールを使ってやりとりし、それが夜中まで及ぶことも稀ではないようです。

これは一例ですが、スマートフォンに夢中になりすぎますと「今、ここ」ですべきことに集中するのが難しくなり、生活態度に影響を与えてしまいます。小さな子供をもつ母親が子供と遊んであげるよりスマートフォンに夢中で、子供の要求を後回しにしてしまう、と自己嫌悪に陥っている方が番組のなかでインタビュースされていました。

人は一人では生きる事ができません。周りの人とのつながりの中で生きるのが人間です。ですからコミュニケーションというのはいつの時代も大切なのですが、本当に大事な事を伝える時は、できるだけお互い面と向かって会話するようにしたいものです。

言葉には、その意味と響きの両方があります。文

字にしてしまうと意味は伝わっても、その響きは直接伝わりません。声に出して言う、耳で聞き、目で相手の表情を読み取るなど、見えない気持ちをはかにかに伝えるかがコミュニケーションの大切な側面だと思います。

お念仏を口に称えるのもそうではないでしょうか。文字にかかれた名号をいくら見つめていても、響きはしません。如来さまのお慈悲が響かないのです。「なんまんだぶつ…」そう口に称えたときに耳から聞こえるお念仏の響きが如来さまの「かならずたすけるぞ」という摂取不捨の呼び声と味わうことができるのでしよう。



私が忘れていても、常に如来様は私とつながっているのです。

## 第十四回門信徒会総会

米田 悦子

四月二十五日に信行寺礼拝堂で総会が執り行われました。毎年、総会では事業報告や会計報告等の議事を行います。また、ご門徒さまに法義を通したお話などをして頂いています。

今回は、神戸商船大学で学び、また学生に教鞭もとられながら、自らも留学、研究を続けてこられた、久保雅義さんのお話を拝聴させて頂きました。

久保さんは幼少の頃よりご両親から仏様の教えを聞いて成長された経験が、学問の世界にはいられてからも益々深まっていかれる様子を語って下さいました。四十五年間、教育と研究の世界を歩む中で「お念仏の教えは分らないことだらけ。だから問い続ける習慣と考え続ける習慣を与えてくれた」そして、「思いどおり行く事も行かない事も全て味わうこと。多くの出会いが、私を学ばせてくれている、その言葉ひとつひとつに阿弥陀様の願いを感じるのです。」としめくくられました。

## 第四十二回親鸞聖人報恩まつり

中川 さなみ

五月二十八日に神戸文化ホールにて、親鸞聖人報恩まつりが行われました。

第一部の式典に「信行寺みやび会」も聖歌隊として今年も参加しました。有難いことです。

第二部の講演は「この世を仏教で生きる」と題して、大平光代先生のお話がありました。

壮絶な少女時代から二十二歳で立ち直って二十九歳で弁護士になり、少年たちに人の命の大切さを教えたいと頑張られました。大阪市の助役になってからは市民の大切な税金を守る為、改革に



取り組まれ、その頃苦しんでいる中で「歎異抄」の一節が浮かび、人の為と思っていたが、自分が人から良く思われたかったのではないだろうか、と思い直しました。

今、ダウン症の娘さんを育てておられ、この子が先に亡くなる事の悲しさを知り自分が少女の時、自ら死のうとした時の両親の辛さに気づきました。

「阿弥陀様が娘を授けてくださった」自分が大きいと苦しみも大きくなる。「はからいを捨てよ」苦しい現実を受け止めて生きる。仏教で生きる私へのお話でした。

第三部清興「津軽三味線」では「まつり」に相應しい賑やかな三味線の音で始まり、世界のメロディーでバンジョウの曲を三味線は楽しかったです。皆さんが楽しまれ、アンコールの拍手に答えて下さいました。

## 私と刺繍との出会い

新田 光美

小学校五年生の時、手芸クラブに入って 色々な物に可愛い刺繍をするという所から始まった様に思います。手先が不器用な私は他の事は何も出来ないけれど、これだけは下手くそでも好きでやめようとはしませんでした。

結婚してから友達達の誘いで戸塚刺繍を習いに行きました。本格的に習うのは本当に難しいものでした。一人前に年数だけは経っているけれど上達はしませんでした。



でも好きだからやるといった感じで、暇さえあれば自分でテーブルクロスや色々な物を刺していました。そのうち老眼になって布目が見えなくなり戸塚はやめようと思いきや、思考錯誤していたら、友達がデパートに手芸コーナーがあるよと教えて下さり欧風刺繍と出会いました。これだったら老眼でも刺せるかと思いきや、今では出来あがるのが楽しくて仕方ないです。それに私の好きなビーズやスパンを使ったりもするので本当に楽しいです。

好きこそもの上手なれと言いますが、そうはいかないようです。

## 信行寺行事予定とご案内

### ◇ 本堂納骨お盆法要

八月十六日(日)  
午後二時より 本堂にて

### ◇ 夏期特別法座

八月二十二日(土)  
午前十一時から午後三時  
信行寺 本堂・礼拝堂にて  
②今年から第四土曜日になります。

### ◇ 秋の彼岸法要

九月二十六日(土) 佐々木義英先生  
二十七日(日) 住職  
両日とも二時より 本堂にて

### ◇ 西大谷納骨参拝

十月十八日(日)



バスでご一緒いたしますのでご参加希望の方はお早めにお寺にお問い合わせください。

## 編集後記

町なかを歩いていると、時々幼い子が大きな声で泣きながらお母さんに一生懸命何かをうったえている姿を見かけます。それはいわゆるイヤイヤ期と呼ばれる第一反抗期の子たちだそうです。わたしたちは2歳の頃に初めて自我がめばえ、自己主張を始めるようです。それは大切な時期で、親は叱るのではなく子供の気持ちを尊重しながら育てていくことが大事だそうです。

自己主張は人間の成長には大切なものですが、私たちは煩惱にまどわされ、いつの間にかどんどんそれが強くなっていくことに気がつきません。そうならないようにと見守ってくださっている阿弥陀様のお声をきかせて頂くことが大切なでしょうね。

今年の「お花まつり」には可愛い園児さんたちが沢山お参りしてくれて楽しくお遊びもでき、とてもうれしく思いました。来年も是非お参りしてくださいね。  
多田 清子

寺院内の様子や行事、寺報「ほのほの」も創刊号から最新号まで閲覧できます。ホームページをクリック

神戸 信行寺

で

検索

してください。